

ケアセンターけやき

症例概要 利用者:80代後半・女性 要支援2

利用期間:2020年8月～現在(けやき 通所介護 利用中)

既往歴:新型コロナウイルス肺炎、フレイル

経過:2020年7月下旬に体調が悪くなり救急搬送、PCR検査で陽性、中等症の診断となる。同日、都立感染症指定医療病院に転入院。8月上旬状態安定し、自宅退院。家族は7月下旬 PCR検査陰性。コロナ肺炎による入院でフレイル(虚弱)が進み、歩行を含めたADLの低下が著明な状況でした。万年床の生活でしたので、看護・リハビリとともに状態を確認しながら、段階的に生活改善の提案を行うことで以前の状態まで回復することができて、笑顔を取り戻せました。

内 容

2020年8月初旬 自宅退院後、発熱等はありませんでしたが排便がなく、往診医が度々、対応していた様子でした。開始当初は、食事や水分摂取も少なく、日中はほとんど布団で寝て過ごされて、トイレの行き来や起居動作時だけでも、息切れが起きている状態でした。

まずは、離床による椅子座位での生活スタイルを目指し、段階的に生活改善の提案させて頂き、入院前のADL再獲得を目標に設定させて頂きました。そのことを踏まえて、看護師と療法士が連携して介入していきました。

9月になると状態も安定され、笑顔と活気も出てきました。呼吸状態は良好になり、清拭からシャワー浴に変更しました。食事や水分摂取も、規則的となり、以前より食事量も増えてきました。また、息子さんからは、「8月末から食事摂取も可能になり、ちよつとずつ元気になってきました！」と報告がありました。居室にも万年床から、椅子スタイル生活に変更。屋外歩行療法開始し、28日後には自宅周辺10m程度から、近隣のお店までの往復が可能になりました。自宅内での移動動作目標達成レベルまで到達したため、今後の活動性向上、外出の機会を増やすことを目的に、けやき通所介護に移行することができました。

元々、華道の師範をしていたこともあり、社交的な性格で、通所介護利用中も、他の利用者さんやスタッフとも笑顔で過ごすことができるようになりました。



12月に入り、東京はコロナ感染者が増えている状況です。ケアセンターけやきでは感染に対するリスクに配慮しながら、業務にあたっております。

そのような状況下でコロナウイルス感染から回復し、今回のように、再び笑顔を取りして頂けたことはキラキラ介護賞に値するとして、推薦をさせていただきます。